

二次元ハンドスキャナ

NI 2 2 XUSB

NI 4 6 XUSB

取扱説明書

Ver. 1.1

インタフェース : USBキーボード
USB仮想COM



はじめに

このたびは二次元スキャナ NI22(46)XUSB をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本取扱説明書には、NI22(46)XUSB の外部機器との接続方法および内部パラメータの設定方法について記載してありますので、初めて NI22(46)XUSB を使用する前に必ずお読みください。

ご注意

- (1) 本書の内容の全部または一部を無断で複製することは禁止されています。
- (2) 本書の内容については改良のため予告なしに変更することがありますのでご了承ください。
- (3) 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきのことがございましたら巻末の弊社担当窓口までご連絡くださるようお願い申し上げます。
- (4) 本書に基づいて NI22(46)XUSB を運用した結果の影響については、前項(3)にかかわらず弊社では責任を負いかねますのでご了承くださいようお願い申し上げます。

商標について

Microsoft[®] Windows[®]は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。その他の商標および登録商標は、所有各社に帰属します。

目次

安全上のご注意	1
NI22XUSB 外観図	3
NI46XUSB 外観図	4
ステータス LED 表示について	5
トラブルシューティング	6
セットアップ	7
NI22(46)XUSB (USB キーボードインタフェース) のセットアップ	7
設定手順	9
出荷時設定	10
通信設定	11
CAPS LOCK の設定	11
読取り動作の設定	12
読取りモードの設定	12
トリガモード	12
連続モード	12
ターゲットモード	13
読取り可能時間設定	14
キャラクタ間ディレイ時間の設定	15
漢字出力モードの設定	16
1) キーボード言語を設定する。	16
2) 文字コードを設定する。	16
3) 出力モードを設定する。	17
読取りブザー設定	18
読取り時ブザー音の ON/OFF 設定	18
読取り時ブザー音の音色設定	18
読取り時ブザー音長の設定	18
読取り時ブザー音量の設定	19
バイプレータ機能の設定	19
デコード多重チェック	20
紙面検知モード	21
オートトリガスタンドモード	21

検知モード.....	22
照明及びエイミングの設定.....	23
読取りLED照明(白色LED)の設定.....	23
ターゲット用エイミング照明の設定.....	23
ステータスLEDの設定.....	24
反転バーコード(二次元コード).....	25
データフォーマットの設定.....	26
はじめに.....	26
プリフィックスの設定.....	27
データキャリア識別子について.....	27
データキャリア識別子の付加.....	27
データキャリア識別子とは.....	28
コード別プリフィックス設定.....	29
サフィックスの設定.....	32
ターミネータについて.....	32
ターミネータの解除.....	32
ターミネータの設定.....	33
コード別サフィックス設定.....	34
読取りバーコード(二次元コード)の設定.....	37
全コード種別読取許可(アドオン除く).....	37
全コード種別読取禁止.....	37
コード 39 の設定.....	38
読取り設定.....	38
フル ASCII 変換.....	38
スタート/ストップキャラクタの転送.....	38
チェックキャラクタの検証.....	38
末尾文字の送信.....	38
読取り桁数範囲の指定.....	39
最小読取り桁数の指定.....	39
最大読取り桁数の指定.....	39
インターリーブド(INTERLEAVED) 2of5 の設定.....	40
読取り許可/不許可.....	40
チェックキャラクタの検証.....	40
末尾文字の送信.....	40
読取り桁数範囲の指定.....	41

最小読取り桁数の指定	41
最大読取り桁数の指定	41
インダストリアル(INDUSTRIAL) 2OF5 の設定	42
読取り設定	42
チェックキャラクタの検証	42
末尾文字の送信	42
読取り桁数範囲の指定	43
最小読取り桁数の指定	43
最大読取り桁数の指定	43
マトリクス(MATRIX) 2OF5 の設定	44
読取り設定	44
チェックキャラクタの検証	44
末尾文字の送信	44
読取り桁数範囲の指定	45
最小読取り桁数の指定	45
最大読取り桁数の指定	45
UPC の設定	46
読取り設定	46
UPC-A 設定	47
先頭キャラクタとチェックキャラクタの転送	47
UPC-E 設定	48
先頭キャラクタとチェックキャラクタの転送	48
UPC-EをUPC-Aに変換する	48
EAN/JAN の設定	49
読取り設定	49
定期刊行物コード(新雑誌コード)の設定	49
チェックキャラクタの転送	50
ISBN 変換	51
書籍二段コードの読取り設定	51
書籍二段コードの読取り有効/無効の設定	51
書籍二段コードのデータ連結出力の有効/無効の設定	51
コーダバー(CODABAR / NW-7) の設定	52
読取り設定	52
スタート/ストップキャラクタの転送	52
チェックキャラクタの検証	53
末尾文字の送信	53
読取り桁数範囲の指定	54



最小読取り桁数の指定	54
最大読取り桁数の指定	54
コード 128 の設定	55
読取り許可	55
GS1-128(UCC/EAN128)フォーマット設定	55
変換モード1.....	55
変換モード2.....	56
変換モード3.....	57
変換モード4.....	58
コード 128 の読取り桁数範囲の指定	59
最小読取り桁数の指定	59
最大読取り桁数の指定	59
GS1-128 の読取り桁数範囲の指定	60
最小読取り桁数の指定	60
最大読取り桁数の指定	60
コード 93 の設定.....	61
読取り設定	61
読取り桁数範囲の指定	61
最小読取り桁数の指定	61
最大読取り桁数の指定	61
MSI/PLESSEY の設定	62
読取り設定	62
読取り桁数範囲の指定	62
最小読取り桁数の指定	62
最大読取り桁数の指定	62
GS1 DATABAR の設定	63
読取り設定	63
PDF417 の設定	64
読取り設定	64
マイクロ PDF417 の設定	64
読取り設定	64
QR CODEの設定	65
読取り設定	65
MICRO QR CODEの設定	65
読取り設定	65
DATA MATRIX (ECC200) の設定	65
読取り設定	65

AZTEC CODEの設定	65
読取り設定	65
MAXI CODEの設定	66
読取り設定	66
OCRの設定	67
マイナンバー	67
免許証ナンバー	67
ISBNコード	67
OCR-Aフォント	68
OCR-Bフォント	68
その他の設定	69
連結コードの設定	69
コードサーチ優先モードの設定	69
保守メニュー	70
ファームウェアのバージョン確認	70
附属書1. フル ASCII バーコード	71
附属書2. 特殊キー対応バーコード	82
サンプルバーコード	85


安全上のご注意


ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。


本書では、製品を安全に正しくお使いいただくため、また機器の損傷を防ぐため、次の記号を用いて、守っていただきたい事項を示しています。







 警告	この表示の内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示の内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。


記号の意味:


 記号は、注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを示しています。

 記号は、禁止(してはいけないこと)であることを示しています。

 記号は、必ずして欲しい内容を示しています。

 警告	
<p>重要:システム設計者へ</p> <p>◆ 薬品の管理など、人命に影響を与える可能性があるシステムでは、データが誤った場合でも人命に影響を与える可能性が無いよう、冗長設計、安全設計には十分ご注意ください。</p>	
<p>◆ 次のような場合は、すぐにホスト側の電源を切り、インタフェースケーブルのコネクタを抜いて販売店にご連絡ください。</p> <p>そのまま使用すると、火災や感電、事故または故障の原因になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 煙がでている場合、変なおいや音がしている場合 ➤ 製品の内部やすき間に、金属片や水などの異物が入った場合 ➤ 製品を落とすなどして動作しなくなった場合、ケースが破損した場合 	
<p>◆ 製品を分解したり、改造したりしないでください。</p> <p>事故や故障の原因になります。</p>	
<p>◆ 湿気の異常に多い場所や水滴のかかる可能性のある場所では使用しないでください。</p> <p>火災や感電、故障の原因になります。</p>	
<p>◆ 製品の内部やすき間に、金属片を落としたり、水などの液体をこぼしたりしないでください。</p> <p>火災や感電、故障の原因になります。</p>	

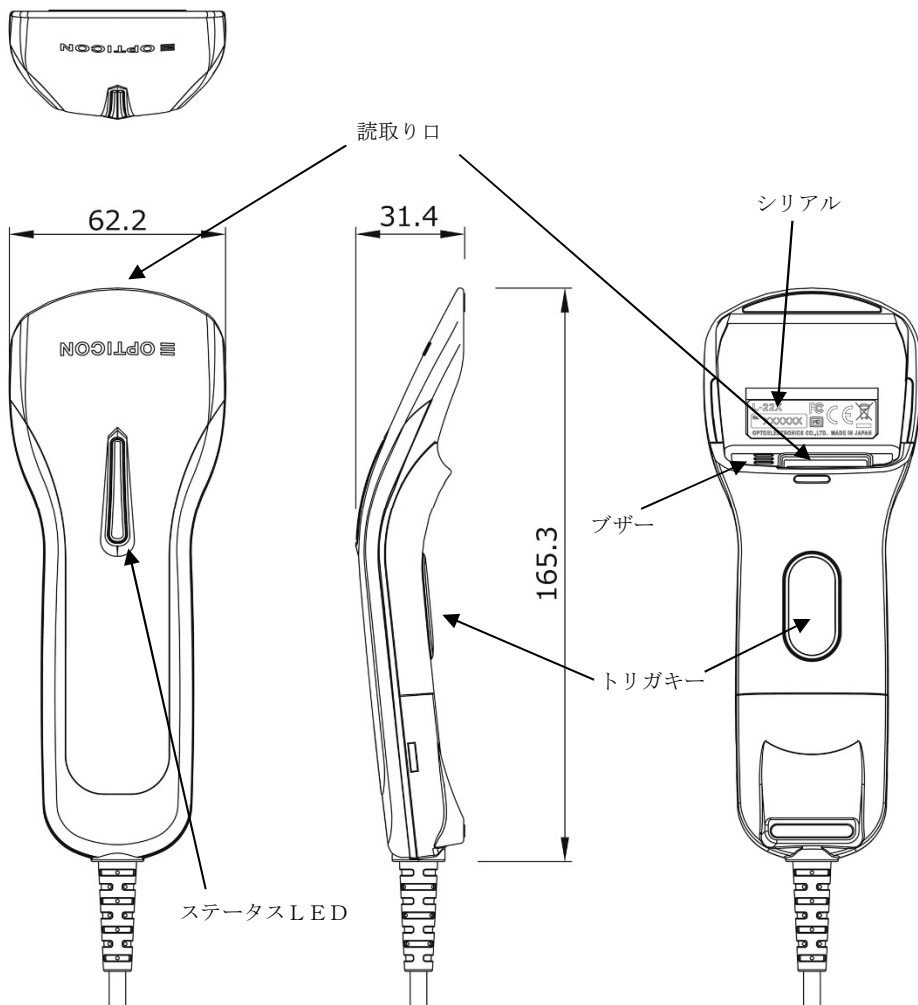
<p>◆ 濡れた手で、インターフェースケーブルなどを接続したり取り外したりしないでください。感電の原因となることがあります。</p>	
--	---

<h2>⚠注意</h2>	
<p>次のようなことは、絶対に行わないでください。守らないと、火災や感電、事故または故障の原因となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ スキャナ本体やインターフェースケーブルの上に重たいものを置かないでください。また重いもの下敷きにならないようにしてください。 ▶ スキャナ本体をたいたり落としたりして衝撃を与えないでください。 ▶ 不安定な場所に置かないでください。 ▶ インターフェースケーブルを無理に曲げたり、ねじったり、強く引っ張ったりしないでください。 	

NI22XUSB 外観図

外寸:165.3mm×62.2mm×31.4mm

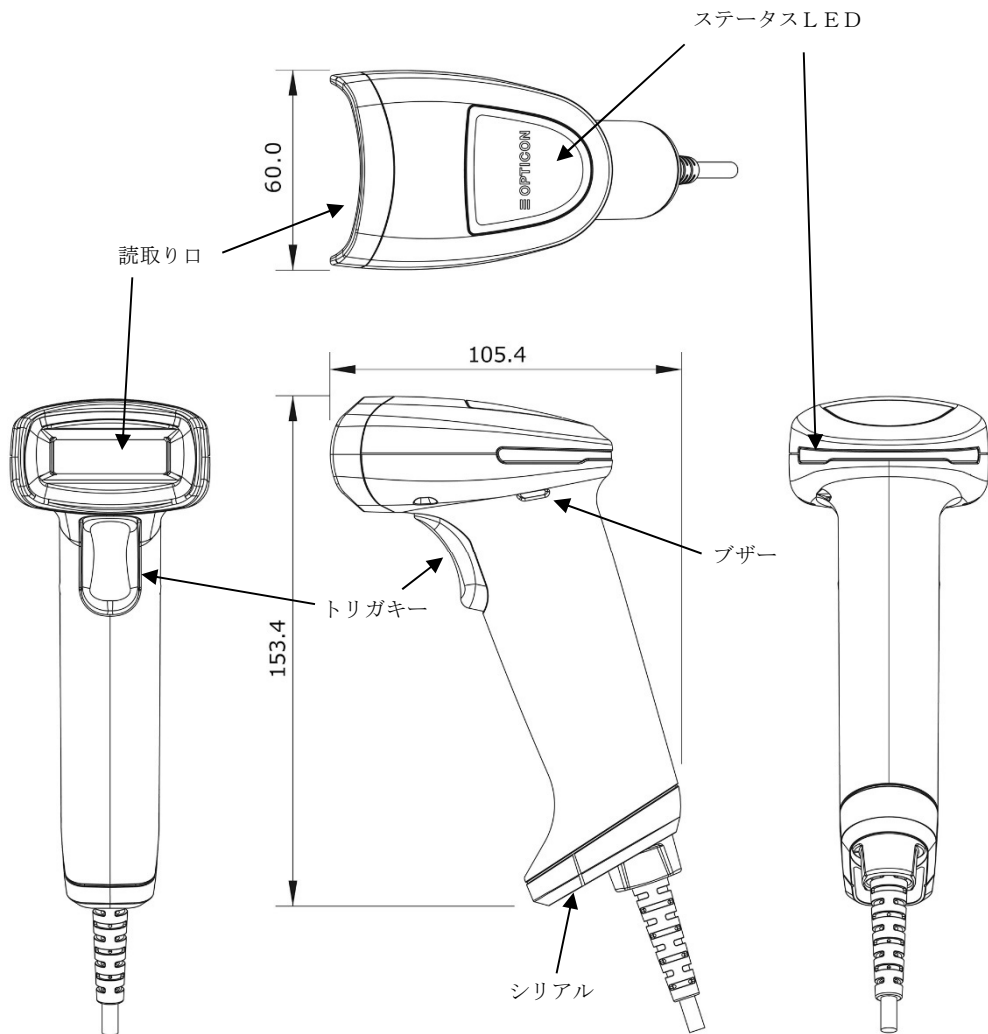
質量:77g(ケーブル含まず)



NI46XUSB 外観図

外寸:105.4mm×60mm×153.4mm

質量:112g(ケーブル含まず)



ステータス LED 表示について

青LED、赤LED、黄LEDでスキヤナの活動状態を表示します。

LEDの状態	ステータスLEDの示す内容
LED消灯	◆ コンピューターからの電源の供給がない状態。 ◆ 待機状態。(トリガボタンは有効です。)
赤LED点灯	◆ 無効メニュー読取り時 ◆ データ送信エラー時
青LED1回点灯	◆ バーコードを正常に読取り完了 ◆ 設定バーコード読取り完了
黄LED1回点灯	◆ 設定バーコード読取り時

※ステータスLEDは読取り時・NG時・スタンド設置時の色を変えることができます。

トラブルシューティング

現象	考えられる原因	解決方法
スキャナにまったく反応がない・LED が点灯しない・ブザー音が鳴らない・光が出ない。	◆ 電源が入っていない可能性があります。	マニュアルの「セットアップ」を参照して、スキャナを接続してください。
	◆ ケーブルが断線している可能性があります。	接続が正しく行われているかご確認ください。
	◆ スキャナが故障している可能性があります。	
スキャナは機能しているが、バーコードを読取らない。	◆ 読もうとしているバーコードの種類が読取禁止になっている可能性があります。	バーコードの読取許可を行ってください。
	◆ 読もうとしているバーコードの桁数が設定の範囲外になっている可能性があります。	バーコードの桁数を設定してください。
読取音はするがデータが表示されない。	◆ ケーブルが断線している可能性があります。	接続が正しく行われているかご確認ください。
バーコードが桁落ちする。	◆ ホスト機器のデータ受信が追いついていない可能性があります。	「キャラクタ間ディレイ時間の設定」を行ってください。

上記をお試しいただいても症状の改善が見られない場合は、故障の可能性がありますので、修理依頼書をご記入の上、修理依頼品と同梱で下記住所へお送りください。

尚、修理ご依頼時の送料はお客様ご負担になりますので、ご了承くださいませようお願いします。

送り先住所:

〒110-0016

東京都台東区台東3-42-5 日栄インテック御徒町第1ビル F8

日栄インテック株式会社 Auto-IDグループ 修理担当者 宛

電話 03-5816-7141

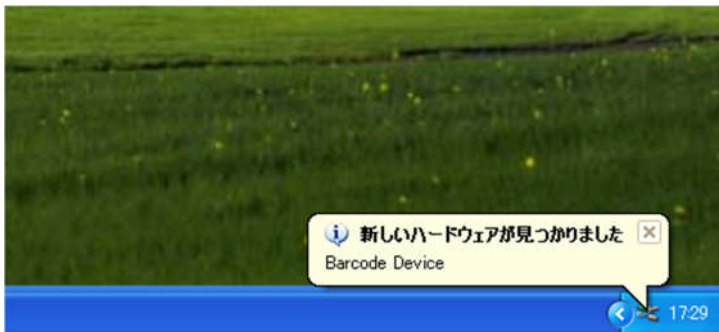
セットアップ

NI22(46)XUSB (USB キーボードインターフェイス)のセットアップ

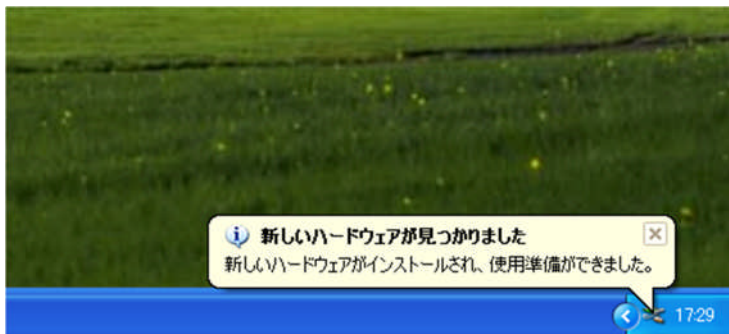
(1) ドライバのインストール

NI22(46)XUSB を初めて PC に接続する際、「USB ヒューマン インターフェイス デバイス」ドライバのインストールが必要になります。ここでは、Windows の画面を用いて、インストール手順を説明します。

- a) PC に電源を投入し、Windows を起動します。
- b) スキャナの USB コネクタを、PC の USB ポートに接続します。
※USB ハブは使用せず、スキャナを直接 PC に接続してください。USB ハブを使用した場合、スキャナの動作が不安定になったり、動作しなかったりする場合があります。弊社では、USB ハブの使用はサポート外とさせて頂いておりますのでご了承ください。
- c) スキャナ本体のブザーが「ピロリ」と 1 回鳴り、インジケータ LED が複数の色が点灯します。
※ブザー音がまったく鳴らなかった場合は、一旦 PC の電源を切り、ケーブルの接続を確認してやり直してください。それでも状況が改善されない場合は、巻末に記載の弊社担当窓口までご連絡ください。
- d) PC のディスプレイ画面のタスクトレイに「新しいハードウェアが見つかりました Barcode Device」のダイアログが数秒間表示された後、自動的にドライバのインストールが始まります。
※ダイアログが表示されない場合は、2～3分そのままの状態でお待ちの上、(2)のテストバーコードにてデータが出力されるかご確認ください。
※OS が WindowsMe 以前の場合は、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます。その場合は、画面の指示に従って設定してください。



- e) ドライバのインストールが完了すると、「新しいハードウェアが見つかりました 新しいハードウェアがインストールされ、使用準備ができました。」と表示されます。



- (2) 読み取りテストを行います。

文字入力できるアプリケーション(メモ帳など)を起動して、次のテストバーコードを読み取ります。



カーソルの位置に「12345」と入力されていればテスト OK です。セットアップは完了しました。

この後、必要に応じて、各種パラメータを設定してください。

設定手順

- (1) 変更したいパラメータの記載されているページを開きます。
- (2) 『設定開始』バーコードを読み取ります。ブザーが「ピロリッ」と1回鳴り、一定間隔で「ピッ、ピッ・・・」と鳴り続け、緑色の光が点灯状態となります。
- (3) 変更したいパラメータの設定バーコードに緑の光を当ててトリガボタンを引くと読み取ります。『設定開始』バーコードを読み取ったときと同じブザー音で「ピロリッ」と1回鳴ります。
- (4) 『設定終了』バーコードを読み取ります。ブザー音で「ピロリッピロリッピロリッ」と3回鳴ります。

複数のパラメータを変更する場合は、1～3を同様に繰り返します。

※設定内容がわからなくなってしまった場合は、一度『出荷時設定』に戻してから、必要に応じてパラメータを変更してください。

※設定バーコードを読んだ際はステータスLEDは黄色が点灯します。

出荷時設定

NI22(46)XUSB を出荷時設定(設定項目名に下線が付いている設定)に戻すには、下記の設定バーコードを上から順に読取ります。

※弊社出荷時には、日本語キーボードにあわせて動作するように、下記の設定を行った製品を出荷しておりますので、前述のセットアップにしたがって接続の上ご使用いただけます。

※下記設定バーコードが読めない場合は、11 ページ上段に記載している“USBキーボードインターフェース設定”の二次元コードを読ませてみてください。

※”設定開始”のバーコードを読むと緑色エーミングが点灯しますので、それを読取るバーコードに合わせてトリガキーを押して読取りを行ってください。



設定開始



USB キーボードインタフェース



106(日本語)キーボード



設定終了



設定開始



設定終了

通信設定

NI22(46)XUSB は出荷時設定のUSBキーボードインタフェース以外にUSB仮想COMに設定することができます。(USB仮想COMとは専用のドライバやアプリケーションを必要とします。データを一括で送信するためデータ量の多い二次元コードでも比較的早くデータを転送することができます。)

下記二次元コードを読む場合は、“設定開始”“設定終了”のバーコードを読む必要はありません。



USB仮想COM



USBキーボードインタフェース

※USB仮想COMに設定する場合は、先に弊社ホームページより専用のUSBドライバをダウンロードし、インストールを行った上で設定の変更を行うようにしてください。

※上記二次元コードで設定すると初期状態になりますので設定を施されていた場合は、再設定が必要となりますのでご注意ください。

Caps Lock の設定

『Caps Lock ON』に設定すると、バーコードデータのアルファベットの大文字を小文字に、小文字を大文字に変換します。

『自動 Caps Lock モード』を設定すると、キーボードの Caps Lock 状態にかかわらず、全て作成したバーコードデータの大文字/小文字に依存して出力されます。(PC の Caps Lock が ON になっているが、作成したバーコードデータ通りの大文字/小文字で出力したい場合に有効です。)



Caps Lock OFF



Caps Lock ON



自動 Caps Lock モード



設定開始



設定終了

読取り動作の設定

読取りモードの設定

トリガモード



トリガモード

トリガモードでは、トリガボタンを押している間、白色光及び緑色光が発光し読取りを行いません。バーコードを読取るると発光は消灯します。また、バーコードを読取る前にトリガボタンを放すと発光は消灯します。

連続モード



連続モード

※連続モードでは、バーコードを読み取ったあと、14 ページの『読取り可能時間設定』で設定されている時間が経過するまで発光は消灯しません。白色光及び緑色光が発光している間は続けて読取りを行います。

上記バーコードのみ設定を行うとトリガーを引いている時のみ連続で読取りするようになります。

(『読取り可能時間設定』の初期状態が 0 秒のため上記動作となります。)

※連続モードに設定した状態で、2つのバーコードに白色光及び緑色光をあてた場合、交互に連続してバーコードを読取る場合がありますので、設定時にはご注意ください。

(次ページへ続く)



設定開始



設定終了

(前ページから)

ターゲットモード

『設定開始』→『オートトリガOFF』→『トリガーリピート有効』→『読取り可能時間 0 秒』→『設定終了』の順にバーコードをお読みください。



オートトリガOFF



トリガーリピート有効



読取り可能時間 0 秒

ターゲットモードでは、トリガボタンを押している間は緑色の光を照射し続けます。読取りを行いたいバーコードの上に緑色の光を照射できた時点でトリガボタンを放すと読取りを行います。

※ターゲットモードを設定した状態で、20 ページの『紙面検知モード』を設定すると、バーコード検知のみで読取りができなくなります。『紙面検知モード』を有効にする場合は、ターゲットモードの設定は行わないでください。



設定開始



設定終了

読取り可能時間設定

指定した時間内にバーコードを読み取れない時に自動的にLEDを消灯する機能です。



0 秒



1 秒



2 秒



4 秒



6 秒



9 秒



設定開始



設定終了

キャラクタ間ディレイ時間の設定

PC/ホスト機器の受信処理が遅い場合、1つ1つのキャラクタ送信間にディレイ(遅延)を発生させることで確実にデータを送信する機能です。



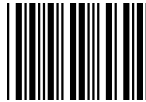
キャラクタ間ディレイなし



ディレイ 20 ミリ秒



ディレイ 50 ミリ秒



ディレイ 100 ミリ秒



ディレイ 150 ミリ秒



設定開始



設定終了

漢字出力モードの設定

QRコード内に2バイト文字(かな・漢字等)が含まれていた場合、初期設定状態でこのQRコードを読むと2バイト文字が正常に出力されません。これを解消するためには2通りの方法があります。1つはP11に記載の『USB仮想COM』に設定する方法です。この場合、出力先の機器にシリアル信号を受けるためのソフト等が必要になります。もう1つは、下記設定を行うことでキーボード信号のまま出力する方法です。※但し、下記設定は出力先等によってうまく機能しない場合がありますのでご確認の上、うまくいかない場合は『USB仮想COM』の設定での運用をご検討ください。

下記二次元コードを読む場合は、“設定開始”“設定終了”のバーコードを読む必要はありません。

キーボード信号のまま2バイト文字を出力するためには下記の3つの項目を設定する必要があります。

1) キーボード言語を設定する。

キーボードは、各国でキーの配列が異なります。そのため、キーボードの言語を正しく設定する必要があります。



日本語



英語

2) 文字コードを設定する。

読み取るコードがどの文字コードで作成されているかを設定する必要があります。



シフトJIS

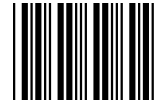


UTF-8

※UTF-8 に設定時は、Unicodeに変換して出力します。



設定開始



設定終了

※下記二次元コードを読む場合は、“設定開始”“設定終了”のバーコードを読む必要はありません。

3) 出力モードを設定する。

データをどのように出力するかを設定する必要があります。



漢字出力モード1 (MOST仕様)



漢字出力モード2 (Windows仕様)

※漢字出力モード1を設定する場合、MOSTというメーカー専用ソフト（無料）をインストールする必要がありますので下記URLよりダウンロードの上、インストールをお願い致します。
Wordに出力する場合は、こちらに設定してください。

※H I Dの特性上、環境に強く依存します。いずれの設定でも必ず出力される訳ではありませんのでご了承ください。

http://www.opto.co.jp/products/tool/ToolDownload_temp.html

※上記URLはメーカー様のホームページのダウンロードページとなります。



設定開始



設定終了

読取りブザー設定

読取り時ブザー音の ON/OFF 設定



ON



OFF

読取り時ブザー音の音色設定



単音



複音

読取り時ブザー音長の設定



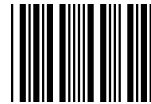
50 ミリ秒



100 ミリ秒



75 ミリ秒



400 ミリ秒



設定開始



設定終了

読取り時ブザー音量の設定



最大



中



大



小

バイブレータ機能の設定

《読取り時のバイブレータ設定》



無効



有効

《起動時のバイブレータ設定》



無効



有効

《読取り時の振動時間の設定》



50msec



200msec



100msec



400msec



設定開始



設定終了

デコード多重チェック

1回の読取り動作で、自動的に2回以上連続して読取り、その結果を照合することにより、データの信頼性を高めます。照合結果が規定回数一致した段階で、ホストにデータを転送します。

照合回数を上げる方が誤読の発生を抑えることが可能となりますが、回数を上げるほど品質の悪いコードは読取りしづらくなりますので上げ過ぎにはご注意ください。(初期値:照合3回)



照合回数 0 回



照合回数 4 回



照合回数 1 回



照合回数 5 回



照合回数 2 回



照合回数 6 回



照合回数 3 回



照合回数 7 回



設定開始



設定終了

紙面検知モード

スキャナの紙面検知(オートリガ)モードの有効・無効を設定します。紙面検知モードが有効の状態では、読取り口より白色光が点灯状態で照射され、紙面が検知されると緑色光も照射され、読取りを行います。

※動作モードで、13 ページの『ターゲットモード』を設定した場合、『紙面検知モード』を有効にすると、バーコード検知のみで読取りが行われなくなります。紙面検知モードでご利用の場合には、『ターゲットモード』を無効にしてください。



紙面検知を無効にする



紙面検知を有効にする

オートリガスタンドモード

紙面検知を無効にした状態で、オートリガスタンド検知を有効にすると、オートリガスタンドに設置した場合のみ、紙面検知の状態になります。オートリガスタンドから外して使用すると、通常の見取りモードの設定で選択した動作モードで動作します。



オートリガスタンド検知を有効にする



オートリガスタンド検知を無効にする



設定開始



設定終了

検知モード

検知モードには3種類のモードがあります。

下記二次元コードを読む場合は、“設定開始”“設定終了”のバーコードを読む必要はありません。

このモードを設定する際は前ページを設定せずに設定を行ってください。

(下記QRコードだけで全ページの2項目とも有効の設定となります。スタンドモードだけ有効にしたい場合は、下記設定後に前ページの”紙面検知を無効にする”の設定を行ってください。)

1) 照明検知モード

白色光が点灯した状態(時間が経つと高速点滅)となり読取りエリアにバーコードが入ると検知します。明るい環境下でも使用可能です。



2) 緑色エイミング検知モード

緑色エイミングが点灯状態となりエリアにバーコードが入ると検知します。



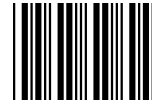
3) 照明無効検知モード

白色光も緑エイミングも点灯しない状態で検知を行います。消費電力は削減されますが、読取りは低下します。周囲光で検知を行いますので暗所では検知できません。この設定をご使用の場合は、明るい場所をご利用ください。





設定開始



設定終了

照明及びエイミングの設定

読取りLED照明（白色LED）の設定

1) LED照明の有効/無効設定

読取り用白色LEDの照明を無効に設定すると紙面に印字したコードは読取りが低下しますが液晶画面に表示されたコードのみを読み取る場合は、読み取り性能が改善します。



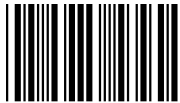
有効



無効

2) LED照明自動切替設定

照明 ON/OFF を交互に行い読み取れた投光状態を記憶し、優先的にその状態で読み取りを行います。鏡面反射が発生しやすいターゲットを読み取る場合に推奨される機能です。



3) 鏡面反射防止設定

LED 照明による鏡面反射があった場合のみ、照明を OFF にし、読み取りを行います。

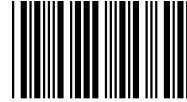


ターゲット用エイミング照明の設定

1) エイミング照明（緑色LED）の有効/無効設定



有効



無効



設定開始



設定終了

2) エイミング照明(緑色LED・白色LED)の輝度設定



高輝度



標準輝度



低輝度

ステータスLEDの設定

読取り成功時のステータスLEDの色を変更することができます。

下記二次元コードでの設定を行う際は、“設定開始”“設定終了”バーコードを読む必要はありません。



橙色



青色



緑色



赤色



初期(緑:20%, 青:80%)



桜色



設定開始



設定終了

反転バーコード(二次元コード)

通常、バーコード(二次元コード)は白地に黒で印刷されますが、希に黒地に白で印刷されたものもあります。この黒地に白で印刷されたものを反転バーコード(二次元コード)といい、読取りが難しいバーコードになります。

この設定は、反転バーコード(二元コード)に特化して、読取り易くする設定になります。このため、『通常及び反転バーコード(二次元コード)読取り』設定を施すと、通常のバーコードが読みづらくなります。

下記二次元コードでの設定を行う際は、“設定開始”“設定終了”のバーコードを読む必要はありません。



通常バーコード読取り



通常バーコード読取り
(反転読取り設定時用)



反転バーコード読取り



通常および反転バーコード読取り
(反転読取り設定時用)



通常及び反転バーコード読取り

※上記設定を行うとバーコード・二次元コードとも設定されてしまいますのでご注意ください。



設定開始



設定終了

データフォーマットの設定

はじめに

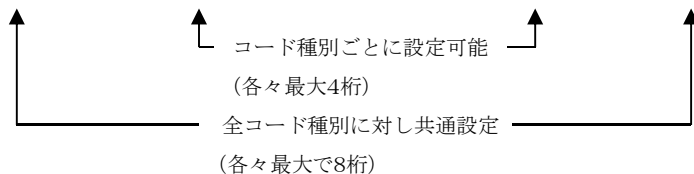
NI22(46)XUSB は、各バーコード種別ごとに、任意のキャラクタをデータの前後に付加することができます。

プリフィックス(データ前に付加するキャラクタ)およびサフィックス(データ後に付加するキャラクタ)を、それぞれ最大 4 キャラクタずつ設定できます。

また、全コード種別に対して共通のコモンプリフィックスおよびコモンサフィックスを、それぞれ最大 8 キャラクタずつ設定できます。

データに対するコモンプリフィックス、コモンサフィックス、プリフィックス、サフィックスの付加位置は次の通りです

[コモンプリフィックス] [プリフィックス] [データ] [サフィックス] [コモンサフィックス]





設定開始



設定終了

プリフィックスの設定

『設定開始』のバーコードを読んだあと、29 ページからの『コード別プリフィックス設定』バーコードを読取り、巻末 68 ページからの『附属書1. フル ASCII バーコード』および『附属書2. 特殊キー対応バーコード』にて、設定したいキャラクタのバーコードを読取ります。プリフィックスには最大 4 キャラクタまで設定できます。また、コモンプリフィックスには最大 8 キャラクタまで設定できます。

データキャリア識別子について

データキャリア識別子の付加

JIS X 0530:2003 に準拠したデータキャリア識別子を、コモンプリフィックス、コモンスuffix およびプリフィックス、suffix に付加することができます。

下記二次元コードを読取るとプリフィック又はコモンプリフィックスにデータキャリア識別子(AIM)を付加して出力するようになります。(これ以外の場所に付加したい場合や種別コード別に付加したい場合は、裏ページのアドレスにお問い合わせください。)



プリフィックスにデータキャリア
識別子(AIM)を付加する



コモンプリフィックスにデータ
キャリア識別子(AIM)を付加する

※上記の二次元コードでの設定には“設定開始”“設定終了”のバーコードを読む必要はありません。

※プリフィックス及びサフィックスとして付けるデータキャリア識別子は、最大4キャラクタ、コモンプリフィックス及びコモンスuffixの最大8キャラクタに対し、1キャラクタ分を使用します。

(次ページへ続く)



設定開始



設定終了

(前ページから)

データキャリア識別子とは…

バーコードリーダが、読取ったデータを PC/ホスト機器に送信する際に付加する ID で、シンボル体系の種類その他、チェックキャラクタを検証したかどうか、送信データにはチェックキャラクタが含まれるのか含まれないのか、などの情報を表します。2000 年に ISO/IEC 15424 Data Carrier Identifiers (including Symbology Identifiers) として制定された国際規格で、日本では 2003 年に JIS X 0530 『データキャリア識別子(シンボル体系識別子を含む)』として JIS 規格化されました。

例) コード 39 の”C+O+D+E39”というバーコードを読取り、データキャリア識別子を付加して送信する場合:

1. フル ASCII 処理をしないでデータ送信…]A0C+O+D+E39
2. フル ASCII 処理してデータ送信……………]A4Code39

データキャリア識別子の内容:

]:データキャリア識別子を示すフラグ

A:コード 39 を示すコードキャラクタ

0:『チェックキャラクタ検証もフル ASCII 処理もしない』ことを示す変更子キャラクタ

4:『フル ASCII キャラクタ変換を実行/チェックキャラクタは検証しない』ことを示す変更子キャラクタ

※詳しくは、JIS X 0530 『データキャリア識別子(シンボル体系識別子を含む)』をご参照ください。

(次ページへ続く)



設定開始



設定終了

(前ページから)

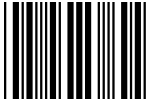
コード別プリフィックス設定



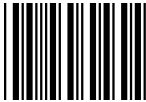
UPC-A



UPC-E



EAN13/JAN13



EAN8/JAN8



コード 39



全コード



UPC-A アドオン



UPC-E アドオン



EAN13/JAN13 アドオン



EAN8/JAN8 アドオン

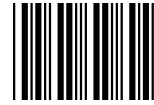


Matrix 2of5

(次ページへ続く)



設定開始



設定終了

(前ページから)



Interleaved 2of5



コード 93



MSI/Plessey



GS1 Databar



Code11



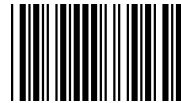
Codabar (NW7)



Industrial 2of5



コード 128



GS1-128



POSTNET



IATA

※プリフィックスを設定後、何も付加しない設定に戻すには、『設定開始』、『全プリフィックスのクリア』、『設定終了』の順に読み取ります。

コモンプリフィックスを設定後、何も付加しない設定に戻すには、『設定開始』、『コモンプリフィックス』、『設定終了』の順に読み取ります。

(次ページへ続く)



設定開始



設定終了

(前ページから)



Data Matrix



Maxi code



Aztec



Chinese Sensible Code



コモンプリフィックス



QR Code



PDF417



MicroPDF417



Codablock-F



Composite Code



全プリフィックスのクリア

※プリフィックスを設定後、何も付加しない設定に戻すには、『設定開始』、『全プリフィックスのクリア』、『設定終了』の順に読取ります。

コモンプリフィックスを設定後、何も付加しない設定に戻すには、『設定開始』、『コモンプリフィックス』、『設定終了』の順に読取ります。



設定開始



設定終了

サフィックスの設定

『設定開始』のバーコードを読んだあと、34 ページからの『コード別サフィックス設定』を読み取り、巻末 68 ページからの『附属書1. フル ASCII バーコード』および『附属書2. 特殊キー対応バーコード』にて、設定したいキャラクタのバーコードを読み取ります。サフィックスには最大 4 キャラクタまで設定できます。また、コモンサフィックスには最大 8 キャラクタまで設定できます。

ターミネータについて

NI22(46)XUSB では、ターミネータをサフィックスとして設定します。初期設定の状態では、ターミネータとして「Enter」が、全コード種別に対するサフィックスに設定されています。

したがって、新たにサフィックスの設定を行う場合は、最後に「Enter」を付加しないと、設定を行ったバーコード種別に対して「ターミネータなし」の状態になります。

※サフィックスに設定できるのは、ターミネータを含め 4 キャラクタ分ですので、キャラクタ数が不足する場合は、ターミネータをコモンサフィックスへ設定することをお勧めします。

設定例:コード 39 のサフィックスに「1234」を付加し、ターミネータに「Enter」を設定する。

『設定開始』→『全コード種別のターミネータ解除』→コード別サフィックス設定『コード 39』
→フル ASCII バーコード『1』、『2』、『3』、『4』→コード別サフィックス設定『コモンサフィックス』
→ターミネータ設定『Enter』→『設定終了』

ターミネータの解除

『設定開始』バーコードを読んだあと、『全コード種別のターミネータ解除』を読み取り、『設定終了』を読み取ります。



全コード種別のターミネータ解除(全サフィックスクリア)

(次ページへ続く)



設定開始



設定終了

(前のページから)

ターミネータの設定

下記の二次元コードを読むことでターミネータの設定を変更することができます。



Enter



Tab



なし



実行 (右 Ctrl)

※上記二次元コードにて設定を行う際は、“設定開始” “設定終了” のバーコードを読む必要はありません。

※ターミネータはサフィックス内に設定されています。このためコモンサフィックスに設定を行った場合は、上記の『なし』の二次元コードを読んでターミネータの設定を削除しないと残ったままになってしまいますのでご注意ください。

※サフィックスに設定を行った場合、ターミネータの設定は消えてしまいますのでターミネータの設定も残したい場合は、サフィックスの設定時に追加して設定を行うようにしてください。

例) ターミネータの『Enter』を残したい場合

サフィックスに追加するもの+『Enter』でサフィックスに設定する。

※その際は、上記の二次元コードではなく 68 ページからの『附属書 1.』内のバーコードを読ませてください。



設定開始



設定終了

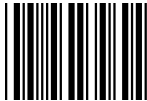
コード別サフィックス設定



UPC-A



UPC-E



EAN13/JAN13



EAN8/JAN8



コード 39



全コード



UPC-A アドオン



UPC-E アドオン



EAN13/JAN13 アドオン



EAN8/JAN8 アドオン



Matrix 2of5

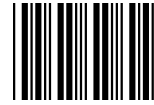
※サフィックスを設定後、何も付加しない設定に戻すには、『設定開始』、『全サフィックスのクリア』、『設定終了』の順に読取ります。

コモンサフィックスを設定後、何も付加しない設定に戻すには、『設定開始』、『コモンサフィックス』、『設定終了』の順に読取ります。

(次のページへ)



設定開始



設定終了

(前のページから)



Interleaved 2of5



コード 93



MSI/Plessey



GS1 Databar



コード 11



Codabar (NW7)



Industrial 2of5



コード 128



GS1-128



PDF417



IATA

(次ページへ続く)



設定開始



設定終了

(前のページより)



Data Matrix



Maxi code



Aztec



Chinese Sensible Code



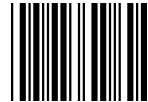
コモンサフィックス



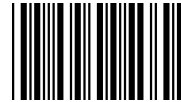
QR Code



PDF417



MicroPDF417



Codablock-F



Composite Code



全サフィックスのクリア

※サフィックスを設定後、何も付加しない設定に戻すには、『設定開始』、『全サフィックスのクリア』、『設定終了』の順に読取ります。

コモンサフィックスを設定後、何も付加しない設定に戻すには、『設定開始』、『コモンサフィックス』、『設定終了』の順に読取ります。



設定開始



設定終了

読取りバーコード(二次元コード)の設定

全コード種別読取許可(アドオン除く)

読取るコード種別がわからないときに設定してください。ただし、この設定を施すと、予期せぬコードを読み取ったり、バーコードに近似した波形となるものをバーコードとして認識する場合がございます。

コードの種別がわかった時点で、読取るコード種別のみ読取許可の設定を施すことをお勧めします。



アドオンを除く全バーコード読取り許可



全二次元コード読取り許可

※上記の全て読取り許可を設定すると全てのバーコード（二次元コード）から読取りの確認を行うため読取りまでに時間がかかるようになりますのでご注意ください。

全コード種別読取禁止



全バーコード読取禁止



全二次元コード読取禁止

※“全二次元コード読取禁止”の設定を行うと設定用の二次元コードも読めなくなりますので読取りする場合は、一旦“全二次元コード読取許可”に設定して読ませてください。



設定開始



設定終了

コード 39 の設定

読取り設定



読取り許可



読取り不許可

フル ASCII 変換



変換する (コード 39 フル ASCII)



変換しない

スタート/ストップキャラクタの転送



転送する



転送しない

チェックキャラクタの検証



検証する



検証しない

末尾文字の送信



送信する

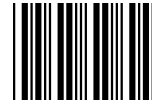


送信しない

※末尾文字の送信を”送信しない”に設定し、フル ASCII 変換を”変換する”に設定するとフル ASCII で作成したコード 39 のバーコードは読取りできませんのでご注意ください。



設定開始



設定終了

コード 39 の設定 (続き)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

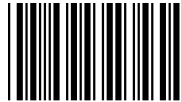
最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』、P72『数字バーコード 2 個』を読取り、『設定終了』バーコードを読取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例: 2 桁の場合は、02と読んでください。)

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦めします。



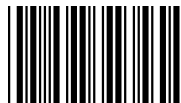
最小読取り桁数の指定 (初期値: 1 桁)

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』、P72『数字バーコード 2 個』を読取り、『設定終了』バーコードを読取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例: 8 桁の場合は、08と読んでください。)

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定



設定開始



設定終了

インターリーブド(Interleaved) 2of5 の設定

読取り許可／不許可



読取り許可

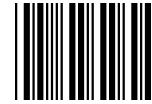


読取り不許可

チェックキャラクタの検証



検証する



検証しない

末尾文字の送信



送信する



送信しない



設定開始



設定終了

インターブド 2 オブ 5 の設定 (続き)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』、P72『数字バーコード 2 個』を読み、『設定終了』バーコードを読み取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例: 2 桁の場合は、02と読んでください。)

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※インターブド 2 オブ 5 では、最小読取り桁数を『1 桁』に設定すると、非常に誤読が発生しやすくなります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦め致します。



最小読取り桁数の指定 (初期値 : 5 桁)

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』、P72『数字バーコード 2 個』を読み、『設定終了』バーコードを読み取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例: 8 桁の場合は、08と読んでください。)

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定



設定開始



設定終了

インダストリアル(Industrial) 2of5 の設定

読取り設定



読取り許可

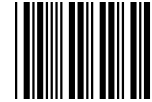


読取り不許可

チェックキャラクタの検証



検証する



検証しない

末尾文字の送信



送信する



送信しない



設定開始



設定終了

インダストリアル 2 オブ 5 の設定 (続き)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

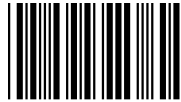
最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』、P72『数字バーコード 2 個』を読取り、『設定終了』バーコードを読取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例: 2 桁の場合は、02と読んでください。)

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※インダストリアル 2 オブ 5 では、最小読取り桁数を『1 桁』に設定すると、非常に誤読が発生しやすくなります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦め致します。



最小読取り桁数の指定 (初期値 : 6 桁)

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』、P72『数字バーコード 2 個』を読取り、『設定終了』バーコードを読取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例: 8 桁の場合は、08と読んでください。)

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定



設定開始



設定終了

マトリクス(Matrix) 2of5 の設定

読取り設定



読取り許可

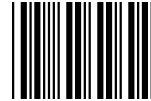


読取り不許可

チェックキャラクタの検証



検証する

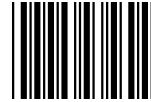


検証しない

末尾文字の送信



送信する



送信しない



設定開始



設定終了

マトリックス2 オブ5 の設定(続き)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

最小読取り桁数の指定

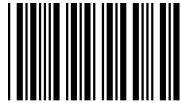
『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』、P72『数字バーコード2 個』を読取り、『設定終了』バーコードを読取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは2 個読ませてください。(例:2 桁の場合は、02と読んでください。)

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※マトリックス2 オブ5 では、最小読取り桁数を『1 桁』に設定すると、非常に誤読が発生しやすくなります。

読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦めします。



最小読取り桁数の指定 (初期値 : 5 桁)

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』、P72『数字バーコード2 個』を読取り、『設定終了』バーコードを読取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは2 個読ませてください。(例:8 桁の場合は、08 と読んでください。)

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定



設定開始



設定終了

UPC の設定

読取り設定



UPC の読取り許可



UPC の読取り不許可



UPC アドオン 2 桁 の
読取りを許可



UPC アドオン 2 桁 の
読取り不許可



UPC アドオン 5 桁 の
読取りを許可



UPC アドオン 5 桁 の
読取り不許可

(次ページへ続く)



設定開始



設定終了

UPC の設定 (続き)

UPC-A 設定

先頭キャラクタとチェックキャラクタの転送



UPC-A の先頭 0 なし

チェックキャラクタ 転送



UPC-A の先頭 0 なし

チェックキャラクタ 転送なし



UPC-A の先頭 0 あり

チェックキャラクタ 転送



UPC-A の先頭 0 あり

チェックキャラクタ 転送なし

(次ページへ続く)



設定開始



設定終了

UPC の設定 (続き)

UPC-E 設定

先頭キャラクタとチェックキャラクタの転送



UPC-E の先頭 0 なし

チェックキャラクタ 転送



UPC-E の先頭 0 なし

チェックキャラクタ 転送なし



UPC-E の先頭 0 あり

チェックキャラクタ 転送



UPC-E の先頭 0 あり

チェックキャラクタ 転送なし

UPC-E を UPC-A に変換する



変換しない



変換する

※上記二次元コードにて設定を行う場合は、上記の”設定開始“”設定終了“のバーコードを読む必要はありません。



設定開始



設定終了

EAN/JAN の設定

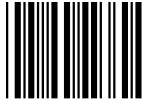
読取り設定



EAN/JAN の読取り許可



EAN/JAN の読取り不許可



EAN/JAN アドオン 2 桁 の
読取りを許可



EAN/JAN アドオン 2 桁 の
読取り不許可



EAN/JAN アドオン 5 桁 の
読取りを許可



EAN/JAN アドオン 5 桁 の
取り不許可

定期刊行物コード(新雑誌コード)の設定

この設定は、「491～」で始まる JAN コードを必ずアドオンつきで送信するための設定です。この設定を施すことにより、「491～」で始まる JAN コードのアドオン 5 桁を読み落とすことがなくなります

※この設定を行うと「491～」で始まる JAN コードは読取りできなくなりますのでご注意ください。



新雑誌コード
読取り無効



新雑誌コード
読取り有効



設定開始



設定終了

JAN/EAN の設定 (続き)

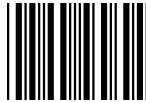
チェックキャラクタの転送



JAN/EAN 13桁のチェックキャラクタ 転送する



JAN/EAN 13桁のチェックキャラクタ 転送しない



JAN/EAN 8桁のチェックキャラクタ 転送する



JAN/EAN 8桁のチェックキャラクタ 転送しない

(次ページへ続く)



設定開始



設定終了

JAN/EAN の設定 (続き)

ISBN 変換

図書二段コードの上段バーコードを読取ったときに、ISBN に変換して転送することができます。



ISBN 変換する



ISBN 変換しない

書籍二段コードの読取り設定

書籍に二段で印刷されている下記のバーコードのみ有効な設定となります。

- ・先頭が”978”の EAN-13 (一段目のバーコード)
- ・先頭が”191”または”192”の Instore-13 (二段目のバーコード)

書籍二段コードの読取り有効／無効の設定

下記設定をすることで一段目のバーコードを読み込んだだけでは出力せず、二段目も読み取った後で一括してデータを出力するようになります。(但し、データは2行で出力されます。)



無効



有効

書籍二段コードのデータ連結出力の有効／無効の設定

下記設定をすることで一段目のバーコードを読み込んだだけでは出力せず、二段目も読み取った後でデータを連結して一括データを出力するようになります。(二段目を先に読んでも一段目が前に来て連結されます。)



無効 (データを連結しない)



有効 (データを連結する)

※連結して出力するためには1つ上の書籍二段コードの読取りを『有効』に設定しておく必要があります。



設定開始



設定終了

コーダバー(Codabar / NW-7)の設定

読取り設定

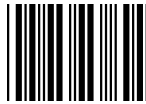


読取り許可

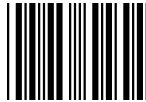


読取りを不許可

スタート/ストップキャラクタの転送



A, B, C, D/A, B, C, D で転送する



a, b, c, d/a, b, c, d で転送する



a, b, c, d/t, n, *, e で転送する



A, B, C, D/T, N, *, E で転送する



転送しない

(次ページに続く)



設定開始



設定終了

コーダバー(Codabar / NW-7)の設定(続き)

チェックキャラクタの検証



検証しない



検証する

末尾文字の送信



送信しない



送信する

(次ページに続く)



設定開始



設定終了

コーダバー(Codabar/ NW-7)の設定(続き)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』、P72『数字バーコード 2 個』を読み、『設定終了』バーコードを読み取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例:8 桁の場合は、08 と読んでもください。)

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※コーダバー(Codabar/NW7)では、最小読取り桁数を『1 桁』に設定することはできませんのでご注意ください。



最小読取り桁数の指定 (初期値: 2 桁)

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』、P72『数字バーコード 2 個』を読み、『設定終了』バーコードを読み取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例:8 桁の場合は、08 と読んでもください。)

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定



設定開始



設定終了

コード 128 の設定

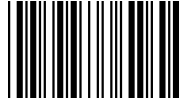
読取り許可



読取り許可

GS1-128(UCC/EAN128)フォーマット設定

GS1-128 変換モード 1~4 のいずれかを有効にした後で、変換モードを無効にしたい場合は、下記バーコードにて「GS1-128(UCC/EAN128)無効」に設定します。



GS1-128 (UCC/EAN128) 無効

変換モード1

GS1-128 の AI を () で括弧くくって出力するモードです。

出力例

ヒューマンリーダブル

(01) 14912345678901 (17) 170329 (30) 1000 (10) 1234567890123456

↓

出力データ

(01) 14912345678901 (17) 170329 (30) 1000 (10) 1234567890123456 “ENT”

『設定開始』のあと、『GS1-128 変換モード 1』を読み取り、『設定終了』を読み取ります。



GS1-128 変換モード 1



設定開始



設定終了

変換モード2

読取りデータから AI を取除き、指定した区切り文字で出力します。

小数点の指定があるデータを読取った場合は、小数点を付加して出力されます。

出力例

ヒューマンリーダブル

(01) 14912345678901 (17) 170329 (30) 1000 (10) 1234567890123456

↓

出力データ

14912345678901 “TAB” 170329 “TAB” 1000 “TAB” 1234567890123456 “ENT”

※区切り文字に”TAB”を設定

『設定開始』のあと、下記の設定バーコードを順番に読み取ります。



GS1-128 変換モード2



区切り文字設定

『区切り文字設定』を読み取ったあとは、62 ページからの『附属書1. フル ASCII バーコード』、『附属書2. 特殊キー対応バーコード』から区切り文字に使うキャラクタを読み取って、『設定終了』を読み取ります。



設定開始



設定終了

変換モード3

先頭の FNC1 を”]C1”に変換、2 つ目以降の FNC1(可変長データの終端)を”Ctrl+] ”に変換します。

出力データに AI は含まれます。

出力例

ヒューマンリーダブル

(01) 14912345678901 (17) 170329 (30) 1000 (10) 1234567890123456

↓

出力データ

“]C1” 011491234567890117170329301000 ”Ctrl+]” 101234567890123456

『設定開始』のあと、『GS1-128 変換モード 3』を読み取り、『設定終了』を読み取ります。



GS1-128 変換モード 3



設定開始



設定終了

変換モード4

2 つ目以降の FNC1 を任意のキャラクタに変換して出力します。

出力例

ヒューマンリーダーブル

(01) 14912345678901 (17) 170329 (30) 1000 (10) 1234567890123456

↓

出力データ

011491234567890117170329301000 ”F1” 1234567890123456

※2 つ目の FNC1 に”F1”を設定

『設定開始』のあと、下記の設定バーコードを順番に読み取ります。



GS1-128 変換モード4



先頭”]C1”を出力しない



FNC1 変換キャラクタ設定

FNC1 変換キャラクタ設定を読み取ったあとは、62 ページからの『附属書1. フル ASCII バーコード』、『附属書2. 特殊キー対応バーコード』から区切り文字に使うキャラクタを読み取って『設定終了』を読み取ります。



設定開始



設定終了

コード 128 の読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』、P72『数字バーコード 2 個』を読取り、『設定終了』バーコードを読取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例:8 桁の場合は、08 と読んでください。)

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦めします。



最小読取り桁数の指定 (初期値 : 1 桁)

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』、P72『数字バーコード 2 個』を読取り、『設定終了』バーコードを読取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例:8 桁の場合は、08 と読んでください。)

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定



設定開始



設定終了

GS1-128 の読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

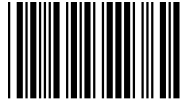
最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』、P72『数字バーコード 2 個』を読取り、『設定終了』バーコードを読取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例:8 桁の場合は、08 と読んでください。)

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦めします。



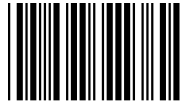
最小読取り桁数の指定 (初期値 : 1 桁)

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』、P72『数字バーコード 2 個』を読取り、『設定終了』バーコードを読取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例:8 桁の場合は、08 と読んでください。)

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定



設定開始



設定終了

コード 93 の設定

読取り設定



読取り許可



読取り不許可

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』、P72『数字バーコード 2 個』を読取り、『設定終了』バーコードを読取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例: 2 桁の場合は、02 と読んでください。)

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦めします。



最小読取り桁数の指定 (初期値: 1 桁)

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』、P72『数字バーコード 2 個』を読取り、『設定終了』バーコードを読取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例: 8 桁の場合は、08 と読んでください。)

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定



設定開始



設定終了

MSI/Plessey の設定

読取り設定



読取り許可



読取り不許可

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

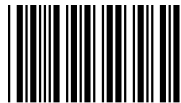
最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』、P72『数字バーコード 2 個』を読取り、『設定終了』バーコードを読取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例: 2 桁の場合は、02 と読んでください。)

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※MSI/Plessey では、最小読取り桁数は初期値の『3 桁』以下に設定することは出来ませんのでご注意ください。



最小読取り桁数の指定(初期値 : 3 桁)

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』、P72『数字バーコード 2 個』を読取り、『設定終了』バーコードを読取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例: 8 桁の場合は、08 と読んでください。)

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定



設定開始



設定終了

GS1 DATABAR の設定

読取り設定



GS1 Databar Omnidirectional (RSS 14) の読取り許可



読取り不許可



GS1 Databar Limited (RSS Limited) の読取り許可



読取り不許可



GS1 Databar Expanded (RSS Expanded) の読取り許可



読取り不許可



設定開始



設定終了

PDF417 の設定

読取り設定



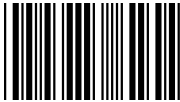
読取り許可



読取り不許可

マイクロ PDF417 の設定

読取り設定



読取り許可



読取り不許可



設定開始



設定終了

QR codeの設定

読取り設定



読取り許可



読取り不許可

Micro QR codeの設定

読取り設定



読取り許可



読取り不許可

Data Matrix(ECC200)の設定

読取り設定



読取り許可



読取り不許可

Aztec Codeの設定

読取り設定



読取り許可



読取り不許可



設定開始



設定終了

Maxi Codeの設定

読取り設定



読取り許可



読取り不許可



設定開始



設定終了

OCRの設定

マイナンバー



有効



無効

免許証ナンバー



有効



無効

ISBNコード



有効



無効

※上記を有効にすると読ませるISBNのまま出力されます。

例えば、「ISBN4-274-94692-4」と記載されていれば、そのままISBN4-274-94692-4が出力されます
のでご注意ください。



設定開始



設定終了

※下記の二次元コードにて設定を行う場合は、“設定開始”“設定終了”のバーコードを読む必要はありません。

OCR-Aフォント

下のQRコードを読むことでOCR-Aフォントの読取りができるようになります。



※ファームバージョンが「BD02J04」以上でないと上記QRコードを読んでも正常に読取りできませんのでご注意ください。ファームバージョンはP68にてご確認ください。

OCR-Bフォント

下のQRコードを読むことでOCR-Bフォントの読取りができるようになります。





設定開始



設定終了

その他の設定

連結コードの設定

1つのデータを複数のコードに分割し、読取り時に連結して出力するコードを連結コードといいます。
NI22(46)XUSB は連結してデータを出力する場合の有効／無効の設定が可能です。



有効にする



無効にする

コードサーチ優先モードの設定

寸法が小さいコードや難読コードの時等に設定を変えることで読取りが改善する場合があります。



中央コード優先の

高精度検索



高速検索



高精度検索

※連結コードを読ませる場合は、“高速検索”に設定すると読取りが改善する場合があります。

※寸法が小さいコードや難読コードの場合は、“高精度検索”に設定すると読取りが改善する場合があります。



設定開始



設定終了

保守メニュー

ファームウェアのバージョン確認



バージョン確認

『設定開始』バーコードに続いて『バージョン確認』バーコードを読取ると、ファームウェアのバージョンが、データとしてスキヤナから転送されます。最後に『設定終了』のバーコードを読まないで設定モードから抜けませんのでご注意ください。

※この取扱説明書は、ファームウェアバージョン『BD02J02』以降に対応しています。

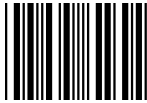


設定開始

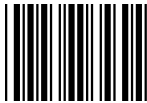


設定終了

附属書1. フル ASCII バーコード



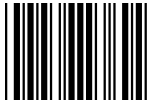
Ctrl+@



Ctrl+A



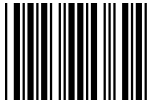
Ctrl+B



Ctrl+C



Ctrl+D



Ctrl+E



Ctrl+F



Ctrl+G



Ctrl+H



Ctrl+I



Ctrl+J



Ctrl+K



設定開始



設定終了

(続き)



Ctrl+L



Ctrl+M



Ctrl+N



Ctrl+O



Ctrl+P



Ctrl+Q



Ctrl+R



Ctrl+S



Ctrl+T



Ctrl+U



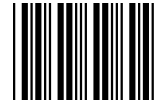
Ctrl+V



Ctrl+W



設定開始

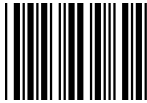


設定終了

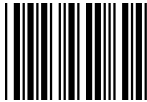
(続き)



Ctrl+X



Ctrl+Y



Ctrl+Z



Ctrl+[



Ctrl+\



Ctrl+]



Ctrl+^



Ctrl+_



スペース(空白)



!



“



#



設定開始



設定終了

(続き)



\$



%



&



'(シングルクォート)



(



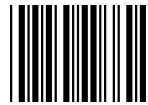
)



*



+



, (カンマ)



- (ハイフン)



.



/



設定開始

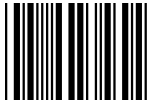


設定終了

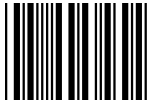
(続き)



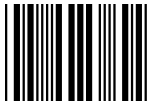
0



1



2



3



4



5



6



7



8



9



:



;



設定開始



設定終了

(続き)



<



=



>



?



@



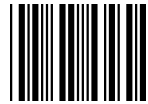
A



B



C



D



E



F



G

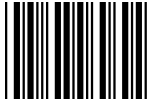


設定開始



設定終了

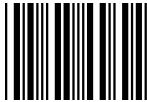
(続き)



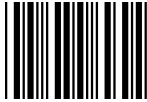
H



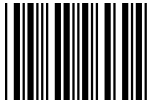
I



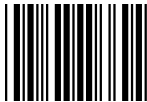
J



K



L



M



N



O



P



Q



R



S



設定開始

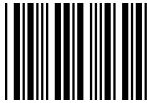


設定終了

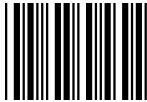
(続き)



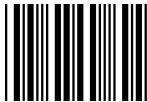
T



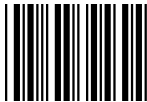
U



V



W



X



Y



Z



[



¥



]



^



_(アンダーバー)

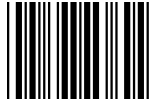


設定開始



設定終了

(続き)



バックオート



a



b



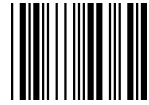
c



d



e



f



g



h



i



j



k



設定開始



設定終了

(続き)



l



m



n



o



p



q



r



s



t



u



v



w



設定開始



設定終了

(続き)



x



y



z



{



|



}



~



Ctrl+BackSpace

附属書2. 特殊キー対応バーコード



F1



F2



F3



F4



F5



F6



F7



F8



F9



F10



F11



F12



↑



↓

(続き)



←



→



Caps Lock



Tab



Return



テンキー Enter



Alt 開放



Alt 押下



Insert



Home



End



Delete

(続き)



Page Up



Page Down



Backspace



左 Ctrl 押下



左 Ctrl 開放



右 Ctrl 押下



右 Ctrl 開放



Shift 開放



Shift 押下



Esc



コード識別子(AIM)



バーコード桁数(1D=2桁、2D=6桁)



バーコード桁数(1D,2D=6桁)

サンプルバーコード

JAN / EAN-13



JAN / EAN-13 + アドオン 5 桁(新雑誌コード)



JAN / EAN-8



UPC-A



UPC-E



コード 39(チェックキャラクタなし)



コード 39(チェックキャラクタ付)



コード 39(フルアスキー)



コーダバー(チェックキャラクタなし)



a123456789a

コーダバー(チェックキャラクタ付)



a123451a

コード 128



NICHIEI-INTEC

GS1-128 (EAN/UCC-128)



(01) 1 4912345 67890 1 (17) 170329 (30) 1000 (10) 1234567890123456

インタリーブド 2 オブ 5



01234567

ITF-14



14560151181353

GS1 Databar Omnidirectional



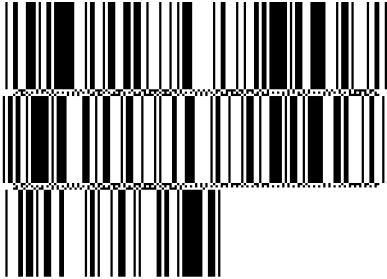
(01) 0 0614141 99999 6

GS1 Databar Limited



(01) 0 0614141 99999 6

GS1 Databar Expanded Stacked



(01) 0 0614141 99999 6 (17) 151231 (10) ABC123 (21) 321CBA

PDF417



マイクロ PDF417



QRコード(全角のみ)



日栄インテック株式会社

QRコード(半角のみ)



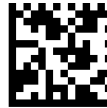
01234567890

マイクロ QRコード



01234567890

Data Matrix



01234567890

Aztec Code



01234567890

日栄インテック株式会社

開発事業部 Auto-ID グループ

〒110-0016 東京都台東区台東 3-42-5

日栄インテック御徒町第1ビル

TEL 03-5816-7141 FAX 03-5816-7140

E-Mail info@barcode.ne.jp

URL <http://www.barcode.ne.jp/>

2018年7月改訂